宝林宝樹 (12)

憂して す 悪分ははいの心心いいた猫 はありませんか。にびにコロコロカので厄介です。「い人」になり、時ので厄介です。「いる私の映し鏡のいる私の悪目は暗いと ロウ変わる猫のでいところで大き のよう ですの の無意識に目は、ま きくなり、 います。 を分け隔てていく、この心を仏教では思識のうちに自分にとって都合が良いまるで様々な出来事によって一喜一 明るいところで細くなります。 犬の黒目はい

心ず なで変 「の 地、こ経「わ分分か が自れ験悪る別別悪 り、時間が経てば「どうでもいす。「良い人」だと思っていた別・・・どころか、一日のうなつしん)」と言います。断し、すべての物事を分け隔で もいい人」にないた人が、ちょっちでもその基準 よを準 つ たという うよう 来す

生きにく 分を基準 とい う思 くなるのです と いし のた も分 と別で心 0 全のて仕 、のことを分け、 に業です。物事に 業 れの ば本 分ける ほろ どう ` ٢ 居

間 では 私 0 なかにあることを教えられ ます。

V とく ち法話

宝林宝 (12)



「の憂」が、 7 る 悪分ははいの心心いいた猫 で万べ判映口は 断しコ暗 つ 口変わる のよう す ての ての物事を分け隔てていく、この心を仏教ではです。無意識のうちに自分にとって都合が良い猫の目は、まるで様々な出来事によって一喜一で大きくなり、明るいところで細くなります。 います。 犬の黒目はい つ見ても真ん丸で

心ず なで変 「の 地、こ経「わ分分か が自れ験悪る別別悪 な ŋ · す別 )。「良 ・・・どころか、一口しん)」と言います。 時間 >経てば「どう」 は「どうでもない、一日のうなが、一日のうな いた 5 い人」になったとん人が、ちょっとよってもその基準が一 というした出 よ事 口 Z

生きにくくなるの を基準 う思 2 いし のた も分 です。 と別 で心 全て 私 の こ 業です。 0 な とを か l: 分物け事 あ ることを教えられます。 れば分けるほどの本質を知る どう بح

真宗興正派